

車椅子使用者を自動車で送迎中の事故

2025年7月29日から、車椅子使用者を自動車で送迎中の事故について調査を行い、2026年7月29日に調査の経過等について公表しました。

■ なぜ調査をしているのですか

車椅子に座っている消費者を自動車で送迎する際、車椅子の固定やシートベルトの装着が適切に行われず、消費者が死亡する事故が発生しているため、調査を行っています。

■ これまでの調査状況は

事故情報の収集、分析、法制度、現在進められているJISの開発等について調査を行っています。車椅子の固定やシートベルトの装着だけでなく、関係する製品及びサービスが一体となり安全が十分確保されることなども課題と考え、事故原因の究明、課題の整理、実効的な再発防止策の検討を引き続き行っていきます。

経過報告はこちら →



COLUMN

自動車送迎での車椅子使用者の 安全確保のためにできること

関西大学社会安全学部 教授
伊藤 大輔 氏



自動車の前面が衝突する前突事故において、車椅子に着座する乗員の傷害のリスクを下げるためには、車椅子の固定とシートベルトの正しい着が重要です。まず、車椅子の固定が不十分な場合、客室内で車椅子ごと乗員が移動し、内装や他の乗員と衝突する恐れがあります。

また、正しいシートベルトの着用方法ですが、固定座席に座る時と同じように、シートベルトは肩ベルトを鎖骨から胸の中央を通し、腰ベルトは骨盤の低い位置に掛ける必要があります。特に腰ベルトが腹部に掛かっていると衝突中の乗員の前方への移動を止めることができないだけでなく、腹部を圧迫し、腹部や腰椎の傷害リスクが上がります。

車椅子着座の場合、このようなベルト着用をするためには、肩ベルトや腰ベルトをアームサポー

トやサイドガード（スカートガード）の下を通してバックルに固定することが重要なポイントとなります。車椅子使用者を自動車で送迎するご家族や介護事業者の皆様におかれましては、狭い車内での対応となるため、中々大変な作業ですが、ぜひこの装着方法を意識してもらえればと思います。

現在、車椅子の自動車への固定方法については新たなワンタッチ固定法が提案されています。これにより、車椅子固定の手間やミスが減ることが期待されます。しかしながら、車椅子を自動車に載せる際には様々なことに気をかけながら作業するため、どうしても固定のし忘れや不適切な使い方をしてしまうことがあるかと思っています。このような人のミスや失敗があったとしても、発進前に警告し、固定ミスを防ぐような技術も併せて構築されることを期待します。

音楽イベントにおける混雑に伴う事故

2025 年 9 月 25 日から、音楽イベントにおける混雑に伴う事故について調査を行い、2026 年 9 月 30 日に調査の経過等について公表しました。

■ なぜ調査をしているのですか

音楽イベントでは、開演前や終演後に多数の来場者が一斉に移動するため、入退場口や通路などで混雑が発生します。混雑の状況によっては、一人の転倒をきっかけとして群集事故が発生し、多くの人が被害を受けるおそれがあります。近年は来場者数や市場規模の拡大もみられることから、混雑の実態や発生要因を明らかにし、安全対策の検討につなげるため調査を行っています。

■ これまでの調査状況は

事故情報データベースや SNS 投稿などを用いて過去の事故・危険情報を収集・分析するとともに、関係法令やガイドラインの調査、イベント主催者や施設管理者等へのヒアリングを実施しています。また、来場者及び事業者を対象としたアンケート調査や、群集シミュレーションによる分析も進めています。これらの調査からは、消費者・事業者の双方が混雑や安全面に課題を認識していることが分かってきています。

経過報告はこちら →



COLUMN

音楽イベントを最後まで良い思い出とするために

消費者安全調査委員会 専門委員
(東京海上ディーアール株式会社ビジネスリスク本部 主席研究員)

小林 亜希 氏



イベント運営側の連携の難しさを知る

現時点では、火災時等の避難安全に関する場合とは異なり、音楽イベントの入退場時のような日常的な場面での混雑の危険をあらかじめ評価する法的仕組みは必ずしも整っていないのが実情です。イベントは、複数のステークホルダーにより運営がなされており、かつイベントごとに多様な構成形態があるため、共通のルール・ノウハウが持ちづらい点に難しさがあります。

来場者側の協力の重要性を確認する

多くの来場者は、音楽を楽しむ、あるいはアーティストを応援するといった前向きな気持ちで現地を訪れています。より良い席で、より応援が伝わる席で…と思うことは自然である一方、来場者が一斉に移動するような場面においては、「自分一人であれば」という些細な行動が事故につながるきっかけとなり得るのです。現場にお

けるマジョリティである来場者が、混雑に伴う事故のメカニズムに一定の理解を持ち、能動的な協力を行えるように運営側から働きかけることもまた、事故防止の観点からは重要です。

イベントを安全・安心に運営するための ノウハウを共有する

法令違反をしていないから安全上の問題はない、との思考にとどまらず、国内外の好事例・好取組を業界全体に共有していくことが求められています。全体に責任を持つ「主催者」が中心となり、当該施設について知見をもつ施設管理者や現場を管理する委託事業者・警備業者等と情報共有や連携を行うためのより良い仕組み・行動の整理が、事故等の未然防止につながる鍵となります。